

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400186		
法人名	医療法人中野会		
事業所名	グループホームRU・RU・RU ユニット1		
所在地	愛知県半田市成岩本町三丁目60番地の3		
自己評価作成日	令和7年1月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2392400186-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和7年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で一人ひとりの持っている能力を活かし、自己決定をしながらその人らしく生活できるように支援しています。買い物や地域の行事への参加、地域交流会の開催等、地域の中で地域と共に生活しています。又、家族や親族の方と手紙やハガキ(年賀状、暑中見舞い等)のやり取りをしたり、家族に家族交流会へ参加して頂いたりして、入居者やホームとの繋がりを継続的に持って頂くようにしている。

医療法人「中野会」の運営する3施設(中野整形外科、介護老人保健施設LA・LA・LA、グループホームRU・RU・RU)が入居者の状態に応じて連携した支援を提供します。定期期にホームにリハビリ職員が訪問し、入居者の身体能力の維持や向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域交流に力を入れている。「地域交流会」の取組みは、市立図書館に、利用者の作った「しおり」を展示したり、市の赤レンガ建物の「ひとはこ市」に参加し、しおりの他、利用者手作りの作品を商品として販売したり、駅や地域の信用金庫等に作品展として展示をお願いする等、ねらいは認知症理解の啓発、啓蒙にほかならない。認知症の人でもこういうことができる…能力がある!という、認知症介護者の「思い」の伝達である。

また、今までとは違った異世代との交流にも取り組んでいる。花の苗を、地域の福祉施設や小学校等に寄贈したり、利用者が小学校に出向く交流や、地域の福祉施設とは利用者同士の交流もある。認知症だからと区別せず、「認知症は仕方がない」を思わない暮らしを実現するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と基本方針を掲示板に掲示し、職員に意識付けを行っている。又、定期的に個人面接を行い、直接職員に具体的支援内容との結び付けを行っている。加えて、理念と方針についてのテストをカンファレンスにて行っている。	運営理念と基本方針を掲示し、職員に意識付けを行っている。理念実践のための個人目標を策定を義務付け、年2回の面談で、職員一人ひとりの目標管理を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で地域との直接的な関わりは避けていたが、成岩小学校や同胞園との交流を行っている。又、地域住民の一員として町内会に加入しており、地域の一斉清掃に参加している。地元消防団との防災訓練を実施し防災に関しての意見交換等を行っている。	町内会に加入し、地域の一員として、持ち回りの区長も行っている。清掃活動等の地区行事には率先して参加している。春の祭礼(山車祭り)参加や、消防団との避難訓練実施等、事例は多い。法人全体が地域の社会資源としての貢献を考える土壌がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と地域の行事等に参加し、入居者と直接関わって頂く機会を作っている。図書館や市内の行事に参加し入居者と共に作成した作品を地域に配布する等、活動の形を変えながら工夫して実践し、認知症の方への理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの暮らしの様子、運営状況、事故等の報告を書面で行っている。その際に意見照会を行い、サービス向上に繋げられるようにしている。	コロナ等の感染予防を鑑み、この1年は、書面で6回の会議を行っている。メンバーに、資料送付→意見聴取→議事録作成→送付(配布)の流れで、特に民生委員からは、地域高齢者情報、地域情報を得ることができている。市と地域包括支援センターにも資料と議事録を持参している。今後は対面開催の予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居や待機人数の報告を行っている。又、隔月の運営推進会議の報告を行い、意見やアドバイスを受ける体制を整えている。	行政担当部署とは、ホーム運営に関わる相談・報告を通じ、適切に連携している。運営推進会議の議事録を持参し、ホームの現状報告から、意見交換や情報交換を行っている。地域包括支援センターにも、運営推進会議の議事録を持参し、地域高齢者情報や地域情報等を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置し、いつでも確認できるようにしている。防犯の視点から、玄関に鍵をかけているが、入居者の言葉や行動に応じ、すぐに外に出られるように対応をしている。カンファレンスや勉強会にて、振り返りや学ぶ機会を設けている。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月毎に委員会及び検討会を実施している。職員には、カンファレンスで内容を周知している。身体拘束排除の方針の下、職員はそれをよく理解し、日常支援に反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会への参加やチェックリストをつける事で、職員一人ひとりが自分の行動を意識して、虐待、スピーチロックにならない声掛けに努めている。又、入居者への言葉遣いや支援方法について不適切な対応をしないよう、管理者及びユニット責任者より指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、理解するように努めている。現在、成年後見制度を利用している入居者はいないがいつでも対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に必ずホームの見学や取り組みを説明し、面談を行った上で、十分な理解を得て家族、入居者と契約を締結している。又、入居者の状態や様子を随時報告し、ケアプラン変更、更新時も疑問や不安に対して説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の生活の中で入居者の言動や表情から個別の要望に応えたり、サービス担当者会議前後に入居者、家族から情報収集して要望の確認を行ったりしている。面会時にも意見を聴取する等して、支援に反映させている。	再開した家族交流会、面会時、電話連絡時等、直接意見を聞く機会を作っている。運営推進会議の資料・議事録の送付で、ホームの現状報告を行い、意見や提案を募っている。家族とは良好な関係にあり、相互に言いたいことを言い合える関係性がある。家族交流会再開希望、家族外出希望等、前向きに検討し、実現させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議で意見交換を行う機会を設けている。又、定期、随時の面接及び話をする機会を設け、希望や今後についても話し合いをしている。	全体会議、ユニット会議等、職員の意見を汲み取る機会がある。年2回の個人面談、随時の面談のほか、必要時にリーダーの個人面談があり、公私ともに話し合う機会を作っている。今回の職員ヒアリングにおいて、「仕事は楽しいだけでなく、学びである」との意見があり、良好な職場環境がうかがい知れる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設目標に沿って年に2回の個人面接を行い、不安、困っている事の聞き取り、評価のフィードバックを行い、総合的な結果を給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の掲示板にホーム内や法人内外での勉強会、研修会の案内を掲示し、参加ができる体制を整えている。又、毎月のカンファレンスにて認知症の勉強会、事例検討を実施し、スキルアップを目指している。加えて、新人職員に対しては指導チームを作り、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会に参加する機会を設け、法人内の職員と情報共有している。又、他事業所と情報交換し、サービスの向上に努めている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず行うホーム見学と本人面談時に直接話をする事で、要望や困っている事を聞き取り、入居と同時に支援ができるように努めている。又、入居が始まってからもコミュニケーションを多く取り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込みの段階で、家族が困っている事や不安な事、要望を傾聴し、ホームでの対応方法を提案して、ニーズの把握と信頼関係を作ることに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の事前情報、家族のニーズ等を把握し、個人の気持ちや希望、有する能力、身体面の状態等総合的に踏まえた上で、必要としている支援を行えるように地域の資源を活用し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や家庭菜園等、入居者の経験や能力を活かした生活を一緒に送ることで、入居者主体で共同生活をしているという意識を持っている。普段の生活でも入居者個々に応じて、出来る事は自分で行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を促し、家族との関係や絆が絶えないように努めている。又、面会時に近況報告を行ったり、個々の状態や様子を毎月書面(おたより)にて報告している。日頃の変化も必要時には電話連絡を行っている。なじみの場所の外出時に感染対策をふまえながら家族の同席を依頼することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族から馴染みの人や場所を聞き取り、関わりが持てるように出かけたり、暑中見舞いや年賀状を書いて送ったりして、関係を繋げている。	利用者のこれまでの生活習慣を大切に考えている。地域のイベントである春の祭礼(山車祭り)参加は特出した習慣である。家族外出のサポート(排泄介助等)を行う支援もある。親族の冠婚葬祭参加等、本人の望む関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や認知症の状態から口論等のトラブルもあるが、普段の生活の様子から入居者同士の関係を把握し、孤立しないように間に入っている。また、入居者同士が、家事や園芸等を一緒に行う事で助け合いの関係が作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしの様子や生活歴、馴染みの物を詳しく伝え、新しい生活に繋げられるようにしている。又、本人や家族、他事業所より連絡があれば、いつでも対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活リズムや好みを把握し、居室担当者を中心に職員同士で情報共有し、支援に繋げている。現在の状態を考慮した上で、サービス担当者会議にて本人主体で考え、実現していけるような支援を検討している。	毎月のユニット会議でケアカンファレンスを行い、職員意見を共有し、集約している。利用者担当制があり、担当が特に深く本人と関わり、責任を持って情報を収集している。支援内容に組み入れる事項は、リーダーと管理者のチェックを経て、介護計画への反映を考える仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や自宅訪問時に、これまでの暮らしや言動、サービス利用時の様子等を確認し、把握している。又、本人や家族から生活歴や入居前の暮らしの様子を聞き、情報収集することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	電子カルテにて生活の様子を記録し、発言や表情、反応も含めて生活の様子を把握する事で一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力等を把握している。又、サービス担当者会議にてアセスメントを行い、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族から事前に生活においての要望等の意見を聞き、サービス担当者会議で入居者個々の状態を話し合い、計画作成担当者が意見をまとめて介護計画を作成している。又、リハビリ専門職と入居者の状態を評価し、目標設定を行っている。	モニタリングを3ヶ月毎に実施し、家族と一緒に支援内容の効果を検証している。本人と家族の意向、集約した職員意見を併せ、支援内容を検討している。介護計画作成からは計画作成担当者が介入し、計画を立案している。立案後に本人と家族に内容を説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテへの記録の他に個々の申し送りノート、伝達ノートを使用し、日常生活の中での小さな変化や気づきも共有できるように努め、実践と介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを把握して地域資源の活用をしたり、法人内の他職種(リハビリ、看護師、管理栄養士)と連携したりして、多面から対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われるイベントに参加したり、地域の精米店、スーパーを活用して食材の買い出しを行っている。又、訪問歯科や訪問理美容等を活用して個々の要望に応えられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関だけでなく、いつでも希望する医療機関に受診できる体制にしている。	ホーム協力医の月2回の訪問診療を支援している。入居前のかかりつけ医の利用も可能であり、受診は原則家族対応をお願いしている。適宜に法人看護師のラウンドがあり、利用者の健康管理と共に、相談体制を確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期、緊急時にいつでも連絡、相談ができる体制をとっている。又、来所時は入居者一人ひとりと顔を合わせて状態を把握し、処置やアドバイス等を受ける体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と家族の両方に、早期の情報提供をスムーズに行っている。退院時には早期の受け入れが行えるように、医療機関や家族とこまめに連絡を取り合って状態の把握と情報交換を行い、受け入れの準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。又、法人内、グループ施設と連携して受け入れ態勢を整えている。状態の変化に合わせて対応できるように随時、入居者の状態等を面会時に家族へ伝え、意向の確認を行っている。	入居契約時に終末期支援にかかわるホームの方針を説明し、同意を得ている。状態変化の都度、家族とホームが話し合い、その後の方針を決定している。ホームでの生活継続が難しくなった場合は、医療機関や他施設移行を含め、本人にとって最善の方法を検討している。同法人の介護老人保健施設、グループ法人の特別養護老人ホームとの連携があり、利用者・家族の安心になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの他にフローチャートも作成しており、職員間で周知している。又、法人内の勉強会にも参加し、緊急時の対応についての技術、知識を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、年3回の防災・水害訓練を実施している。防災リュック等を常備し、災害時の必要物品を揃えて有事の際に対応できるように準備している。加えて、事業継続計画についても継続的に検討を行っている。	年3回の避難訓練を実施している。利用者参加型で、消防署立ち合いでの火災訓練、地元の消防団による水害避難訓練、自主防災避難訓練を各1回実施している。実際に、法人老健まで非常持ち出しの荷物をもって移動する訓練も行っている。RU・RU・RU委員会が主となり活動している。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重する支援の実施を目指し、入居者を尊重した言葉かけやプライバシー保護に対して、職員の更衣室に標語の掲示をしたりして、自身の対応を見直し、職員間で注意し合える環境作りに取り組んでいる。	全体会議で勉強会を実施し、認知症に関する知識を深めている。また、外部研修や、法人研修、法人委員会にも参加している。人生の先輩である利用者のプライドを尊重し、態度や言葉遣いに細心の注意を払っている。利用者が嫌な気持ち、不快な気分にならないように、支援方法を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなもの、食べたいものから食事のメニューを決めたり、入浴時間も自分で決めたりして、自己決定を尊重して希望する生活が送れるように支援している。「行きたい」と希望した場所へ外出する支援も実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整える為に目安の時間はあるが、入居者一人ひとりが散歩や新聞を読む等の日課を自分のペースで行い、希望に合わせて1日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面等は本人の習慣に合わせて行い、自分で服を選んだり、化粧をしたりできるように支援をしている。又、入居者が髪型を気にする様子があれば美容院へ行けるようにしているが、現在はコロナ禍で外出が難しく、訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みを把握し、献立に取り入れている。入居者主体で調理や盛り付け等の食事の準備を職員と一緒に楽しみながら行っている。また、洗いものや食器拭き等の片付けも入居者主体で行っている。	各ユニットが別メニューで、食材は、職員と利用者が買い出しに出かけている。献立作成から調理・後片付けまで、利用者は楽しみながらできることに参加している。行事食や季節食の楽しみもある。コロナ等の感染予防を考え、場所を選んで外食を企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電子カルテを活用して、一人ひとりの食事や水分の摂取量や摂取内容、摂取の時間帯を把握している。又、個々の習慣や体調に合わせて飲み物やパン食等の対応をし、栄養と水分の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、入居者の能力に合わせた支援をしている。又、定期的な歯科往診時に個々の口腔ケア方法の指導を受けたり、随時入居者の状態に合わせて診察を受けたりして、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ内での排泄ができるように声掛けや見守り等の介助支援を行っている。又、入居者の能力や状態に合わせてパット類の選定や排泄方法を検討し、支援している。	トイレ排泄を基本に支援している。自立の利用者が多いことから、残存能力維持を目指した支援方法を検討している。元気な状態が長く続くように、リハビリ専門職と運動等の方法を話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、日常生活の家事動作や体操レク等で毎日体を動かしている。乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れたり、オリゴ糖やセンナ茶を使用したりして、水分摂取量も含めてメニューの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴はいつでも入れる体制を整え、習慣や入りたいタイミングで入浴している。入浴拒否の方に対しては声掛けを増やしたり、時間帯を変えたりして、定期的に入浴できる工夫を行っている。	毎日の入浴を提供し、最低週2回の入浴ができるように入浴管理を行っている。できる限り時間帯の希望にも対応し、拒否のある時は無理強いしない等、入浴が生活の楽しみになるように支援している。座浴の導入があり、ますますの入浴支援充実が期待できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を尊重し、自分のタイミングで休息できるように支援している。不眠に対しては、日中の生活の様子を観察し、環境面や心理面等の要因をユニット内で考えて検討して支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はカルテに最新の物を綴じ、すぐに確認できるようにしている。日常生活の変化を内科往診時に往診医へ報告して、内服薬の検討ができる体制を整えている。又、薬剤師とも連携し、薬の特性や注意点等を直接聞く事ができ、相談ができる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者主体での生活ができる支援を行い、一人ひとりが能力に合わせた役割を持てるようにしている。又、趣味や特技、習慣を活かして物作りや習字を行ったり、散歩やドライブに出掛けたりして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者との会話の中で行きたい場所や馴染み、思い出の場所などを聞き取り、感染対策をしながら職員と外出している。また、家族とも外出先で待ち合わせをして思い出の場所でも過ごせる時間を作っている。	「地域に出る」を目標に掲げている。散歩や個別の買い物等、日常的な外出機会を作っている。ユニット毎の外出の企画や、感染症予防に配慮した外出の企画等、大がかりな楽しみも増えてきている。「利用者それぞれのニーズを把握した外出」の考えがあり、個別対応には余念がない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームで行っているが、欲しいものは職員と一緒に買い物へ行き、自分で選んで買えるよう支援している。 又、現在1名は自己管理を行い定期的に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	継続的に年賀状や暑中見舞いを送っている。又、希望時に電話できる体制を整えており、本人の携帯電話であれば自由に使用可能としている。又、LINEを使用している。ビデオ通話ができる環境も提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる空間作りを心掛けて、入居者の視線に入るものを意識しながら、季節感を感じられるようにカレンダーや壁飾り等にも工夫を行っている。又、毎日室温や湿度を測定し、必要に応じて加湿器や除湿機を設置して環境を整えている。	利用者は、日中のほとんどをリビングで過ごす方が多く、利用者同士が和気あいあい、言いたいことを言い合う馴染みのあたたかい雰囲気がある。朝と昼食後の体操に真剣に取り組み、手仕事に精を出し、できることを探して手伝う等々、思い思いのくつろぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや庭にあるウッドデッキの椅子等、入居者の意思に合わせて過ごせる空間を作っている。状況に応じて好きな場所、好きな席で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の居室環境にできるだけ近づけるよう考慮し、馴染みの家具を持参して設置したり、壁に写真や好みの物を飾ったりしている。	入居時には使い慣れた家具や馴染みの物品の持ち込みが多い。本人の好みに合わせて、家具や物品を配置し、落ち着いて過ごせる環境整備を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は生活リハビリを意識した作りになっており、残存能力を活かせるようテーブルや椅子、棚の配置を工夫している。導線を意識し、安全に自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400186		
法人名	医療法人中野会		
事業所名	グループホームRU・RU・RU ユニット2		
所在地	愛知県半田市成岩本町三丁目60番地の3		
自己評価作成日	令和7年1月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400186-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和7年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で一人ひとりの持っている能力を活かし、自己決定をしながらその人らしく生活できるように支援しています。買い物や地域の行事への参加、地域交流会の開催等、地域の中で地域と共に生活しています。又、家族や親族の方と手紙やハガキ(年賀状、暑中見舞い等)のやり取りをしたり、家族に家族交流会へ参加して頂いたりして、入居者やホームとの繋がりを継続的に持って頂くようにしている。医療法人「中野会」の運営する3施設(中野整形外科、介護老人保健施設LA・LA・LA、グループホームRU・RU・RU)が入居者の状態に応じて連携した支援を提供します。定期期にホームにリハビリ職員が訪問し、入居者の身体能力の維持や向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と基本方針を掲示板に掲示し、職員に意識付けを行っている。又、定期的に個人面接を行い、直接職員に具体的支援内容との結び付けを行っている。加えて、理念と方針についてのテストをカンファレンスにて行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で地域との直接的な関わりは避けていたが、成岩小学校や同胞園との交流を行っている。又、地域住民の一員として町内会に加入しており、地域の一斉清掃に参加している。地元消防団との防災訓練を実施し防災に関しての意見交換等を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と地域の行事等に参加し、入居者と直接関わって頂く機会を作っている。図書館や市内の行事に参加し入居者と共に作成した作品を地域に配布する等、活動の形を変えながら工夫して実践し、認知症の方への理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの暮らしの様子、運営状況、事故等の報告を書面で行っている。その際に意見照会を行い、サービス向上に繋がれるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、入居や待機人数の報告を行っている。又、隔月の運営推進会議の報告を行い、意見やアドバイスを受ける体制を整えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置し、いつでも確認できるようにしている。防犯の視点から、玄関に鍵をかけているが、入居者の言葉や行動に応じ、すぐに外に出られるように対応をしている。カンファレンスや勉強会にて、振り返りや学ぶ機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会への参加やチェックリストをつける事で、職員一人ひとりが自分の行動を意識して、虐待、スピーチロックにならない声掛けに努めている。又、入居者への言葉遣いや支援方法について不適切な対応をしないよう、管理者及びユニット責任者より指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、理解するように努めている。現在、成年後見制度を利用している入居者はいないがいつでも対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に必ずホームの見学や取り組みを説明し、面談を行った上で、十分な理解を得て家族、入居者と契約を締結している。又、入居者の状態や様子を随時報告し、ケアプラン変更、更新時も疑問や不安に対して説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の生活の中で入居者の言動や表情から個別の要望に応えたり、サービス担当者会議前後に入居者、家族から情報収集して要望の確認を行ったりしている。面会時にも意見を聴取する等して、支援に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議で意見交換を行う機会を設けている。又、定期、随時の面接及び話をする機会を設け、希望や今後についても話し合いをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設目標に沿って年に2回の個人面接を行い、不安、困っている事の聞き取り、評価のフィードバックを行い、総合的な結果を給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の掲示板にホーム内や法人内外での勉強会、研修会の案内を掲示し、参加ができる体制を整えている。又、毎月のカンファレンスにて認知症の勉強会、事例検討を実施し、スキルアップを目指している。加えて、新人職員に対しては指導チームを作り、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会に参加する機会を設け、法人内の職員と情報共有している。又、他事業所と情報交換し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず行うホーム見学と本人面談時に直接話をする事で、要望や困っている事を聞き取り、入居と同時に支援ができるように努めている。又、入居が始まってからもコミュニケーションを多く取り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込みの段階で、家族が困っている事や不安な事、要望を傾聴し、ホームでの対応方法を提案して、ニーズの把握と信頼関係を作ることに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の事前情報、家族のニーズ等を把握し、個人の気持ちや希望、有する能力、身体面の状態等総合的に踏まえた上で、必要としている支援を行えるように地域の資源を活用し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や家庭菜園等、入居者の経験や能力を活かした生活を一緒に送ることで、入居者主体で共同生活をしているという意識を持っている。普段の生活でも入居者個々に応じて、出来る事は自分で行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を促し、家族との関係や絆が絶えないように努めている。又、面会時に近況報告を行ったり、個々の状態や様子を毎月書面(おたより)にて報告している。日頃の変化も必要時には電話連絡を行っている。なじみの場所の外出時に感染対策をふまえながら家族の同席を依頼することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族から馴染みの人や場所を聞き取り、関わりが持てるように出かけたり、暑中見舞いや年賀状を書いて送ったりして、関係を繋げている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や認知症の状態から口論等のトラブルもあるが、普段の生活の様子から入居者同士の関係を把握し、孤立しないように間に入っている。また、入居者同士が、家事や園芸等と一緒にいる事で助け合いの関係が作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしの様子や生活歴、馴染みの物を詳しく伝え、新しい生活に繋がられるようにしている。又、本人や家族、他事業所より連絡があれば、いつでも対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活リズムや好みを把握し、居室担当者を中心に職員同士で情報共有し、支援に繋げている。現在の状態を考慮した上で、サービス担当者会議にて本人主体で考え、実現していけるような支援を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や自宅訪問時に、これまでの暮らしや言動、サービス利用時の様子等を確認し、把握している。又、本人や家族から生活歴や入居前の暮らしの様子を聞き、情報収集することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	電子カルテにて生活の様子を記録し、発言や表情、反応も含めて生活の様子を把握する事で一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力等を把握している。又、サービス担当者会議にてアセスメントを行い、情報共有して。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族から事前に生活においての要望等の意見を聞き、サービス担当者会議で入居者個々の状態を話し合い、計画作成担当者が意見をまとめて介護計画を作成している。又、リハビリ専門職と入居者の状態を評価し、目標設定を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテへの記録の他に個々の申し送りノート、伝達ノートを使用し、日常生活の中での小さな変化や気づきも共有できるように努め、実践と介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを把握して地域資源の活用をしたり、法人内の他職種(リハビリ、看護師、管理栄養士)と連携したりして、多方面から対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われるイベントに参加したり、地域の精米店、スーパーを活用して食材の買い出しを行っている。又、訪問歯科や訪問理美容等を活用して個々の要望に応えられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関だけでなく、いつでも希望する医療機関に受診できる体制にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期、緊急時にいつでも連絡、相談ができる体制をとっている。又、来所時は入居者一人ひとりと顔を合わせて状態を把握し、処置やアドバイス等を受ける体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と家族の両方に、早期の情報提供をスムーズに行っている。退院時には早期の受け入れが行えるように、医療機関や家族とこまめに連絡を取り合って状態の把握と情報交換を行い、受け入れの準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。又、法人内、グループ施設と連携して受け入れ態勢を整えている。状態の変化に合わせて対応できるように随時、入居者の状態等を面会時に家族へ伝え、意向の確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの他にフローチャートも作成しており、職員間で周知している。又、法人内の勉強会にも参加し、緊急時の対応についての技術、知識を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し、年3回の防災・水害訓練を実施している。防災リュック等を常備し、災害時の必要物品を揃えて有事の際に対応できるように準備している。加えて、事業継続計画についても継続的に検討を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重する支援の実施を目指し、入居者を尊重した言葉かけやプライバシー保護に対して、職員の更衣室に標語の掲示をしたりして、自身の対応を見直し、職員間で注意し合える環境作りに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなもの、食べたいものから食事のメニューを決めたり、入浴時間も自分で決めたりして、自己決定を尊重して希望する生活が送れるように支援している。「行きたい」と希望した場所へ外出する支援も実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整える為に目安の時間はあるが、入居者一人ひとりが散歩や新聞を読む等の日課を自分のペースで行い、希望に合わせて1日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面等は本人の習慣に合わせて行い、自分で服を選んだり、化粧をしたりできるように支援をしている。又、入居者が髪型を気にする様子があれば美容院へ行けるようにしているが、現在はコロナ禍で外出が難しく、訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みを把握し、献立に取り入れている。入居者主体で調理や盛り付け等の食事の準備を職員と一緒に楽しみながら行っている。また、洗いものや食器拭き等の片付けも入居者主体で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電子カルテを活用して、一人ひとりの食事や水分の摂取量や摂取内容、摂取の時間帯を把握している。又、個々の習慣や体調に合わせて飲み物やパン食等の対応をし、栄養と水分の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、入居者の能力に合わせた支援をしている。又、定期の歯科往診時に個々の口腔ケア方法の指導を受けたり、随時入居者の状態に合わせて診察を受けたりして、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	電子カルテを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ内での排泄ができるように声掛けや見守り等の介助支援を行っている。又、入居者の能力や状態に合わせてパット類の選定や排泄方法を検討し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、日常生活の家事動作や体操レク等で毎日体を動かしている。乳製品や食物繊維の多い食材を取り入れたり、オリゴ糖やセンナ茶を使用したりして、水分摂取量も含めてメニューの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴はいつでも入れる体制を整え、習慣や入りたいタイミングで入浴している。入浴拒否の方に対しては声掛けを増やしたり、時間帯を変えたりして、定期的に入浴できる工夫を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を尊重し、自分のタイミングで休息できるように支援している。不眠に対しては、日中の生活の様子を観察し、環境面や心理面等の要因をユニット内で考えて検討して支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はカルテに最新の物を綴じ、すぐに確認できるようにしている。日常生活の変化を内科往診時に往診医へ報告して、内服薬の検討ができる体制を整えている。又、薬剤師とも連携し、薬の特性や注意点等を直接聞く事ができ、相談ができる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者主体での生活ができる支援を行い、一人ひとりが能力に合わせた役割を持てるようにしている。又、趣味や特技、習慣を活かして物作りや習字を行ったり、散歩やドライブに出掛けたりして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者との会話の中で行きたい場所や馴染み、思い出の場所などを聞き取り、感染対策をしながら職員と外出している。 また、家族とも外出先で待ち合わせをして思い出の場所で過ごせる時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームで行っているが、欲しいものは職員と一緒に買い物へ行き、自分で選んで買えるよう支援している。 又、現在1名は自己管理を行い定期的に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	継続的に年賀状や暑中見舞いを送っている。 又、希望時に電話できる体制を整えており、本人の携帯電話であれば自由に使用可能としている。又、LINEを使用してのビデオ通話ができる環境も提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる空間作りを心掛けて、入居者の視線に入るものを意識しながら、季節感を感じられるようにカレンダーや壁飾り等にも工夫を行っている。又、毎日室温や湿度を測定し、必要に応じて加湿器や除湿機を設置して環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや庭にあるウッドデッキの椅子等、入居者の意思に合わせて過ごせる空間を作っている。状況に応じて好きな場所、好きな席で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の居室環境にできるだけ近づけるよう考慮し、馴染みの家具を持参して設置したり、壁に写真や好みの物を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は生活リハビリを意識した作りになっており、残存能力を活かせるようテーブルや椅子、棚の配置を工夫している。導線を意識し、安全に自立した生活が送れるように支援している。		